

板内外かんなめあり、かわ高さ壹寸壹分二リン、内にて同斷の厚さ壹分、角丸なり、かわ底板へかはとち、一方に三所も有、かわの巾二分ヅ、とちめの下貳寸五分ヅ、かわ外にかわの所にて三分の所、内の底板へハ三分半の所有、かわのくひちがひ五寸貳分○下

〔毛吹草〕山城 折敷 大和 山折敷 石見 濱田折敷

紀伊

根來椀折敷昔寺繁昌之時掠タ昌

方々ニ道具体云、當時賣買之、

〔大饗雜事〕一國折敷百枚

一繪折敷五十枚之内、廿枚送酒部所、白青七十枚

自蝶小鳥尊者以下至弁少納言、青蝶

小鳥上官、白鶴松枝穩座折敷高坏也、

一綠青折敷百枚

面押白絹

〔類聚雜要抄〕一五節殿上饗目錄

保延元年、右衛門督家成進之時、玄蕃頭久長調進之

雜物繪折敷三百枚 白折敷百枚○下

〔玉函叢說〕繪三方

保延元年、五節の殿上の饗の雜物の中に、繪折敷三百枚、白き折敷百枚とみへたり、此白き折敷とは、胡粉塗たるのみにて、畫ぬなればなるべし、さはゑが、ぬをばぬりて、ゑがけるをば本のまゝにやはおくべき繪けり、但し繪破子のやうの喰物たゞちにいるいあるに、今本地の上に畫きたるは誤り也し、それも折たてなど有べき物は、塗べき物は、塗べき物は、塗べき物は、本地の上に畫くべき繪の繪折櫃も胡粉にて本地のやうには見へず、古き彼三百枚の繪折敷も白き折敷の上に、猶繪をくはへたるなる事明らけし、當時近衛殿の元服し給ひし時の繪折敷も胡粉地なりき、また宮方の元服著袴などの御いはひの繪三方も胡粉地也き、是等誠に古きやうをうつされたりと覺ゆ、古しはいたくうるはしくせん料には、沈の折敷銀の折敷などは、物語などにもあなり、略○註されど宿してだみたる事は聞へず、宇治平等院御幸の御膳の御臺も、表には錦をおされ、